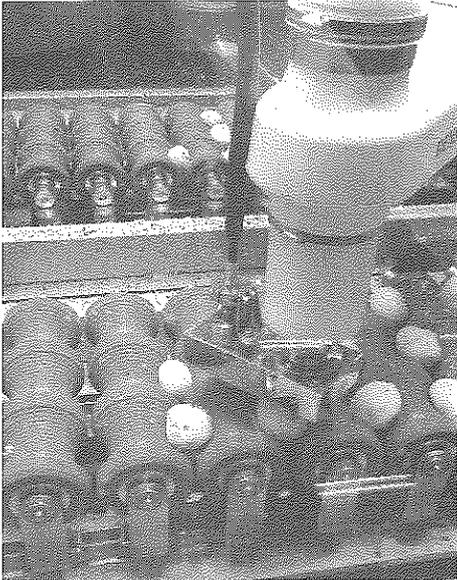


当会会員のシンセメック（株）（石狩市）が、  
平成29年5月22日(火)付の、日刊工業新聞に紹介されました。

## 北海道の食品加工 省人化後押し



1ラインで芽の位置を確認し、  
もう一方のラインで削り取る

【札幌】シンセメック（北海道石狩市、百川丈嗣社長、0133・75・6600）は、北海道立総合研究機構工業試験場と共同で、高速でジャガイモの芽を取る装置を開発した。ジャガイモ1個当たりの芽を取る時間が2秒と、従来比で処理能力を倍増した。食品加工工場向けに4000万円程度での販売を想定する。

### シンセメックが装置

新装置はジャガイモが1列に3個並ぶラインを2ライン設けた。ジャガイモをローラーで回しながら、2台のカメラで全体の芽の位置を確認。ドリルを取り付けたロボットアームで、ジャガイモの表面積における約7割の芽を削り取る。1回当たりの動作で、21個のジャガイモの芽取りを処理できる。

1ラインでカメラがジャガイモの芽の位置を確認している間、もう一方のラインでロボットが芽を削る。カメラとロボットが交互に作業できるようにしたこと、同社が以前に開発した装置の2倍の処理能力を実現した。3月に道内の総菜メーカーで実証実験を行い、実際の現場での性能を確認した。

北海道はジャガイモの生産量が日本で、加工ニーズも高い。ただ食品加工場で芽を取る作業は人手に頼っており、省力化が課題になっていた。ジャガイモの皮をむく装置はいろいろ開発されているが、芽を取る装置はないという。

開発した装置は6月12～15日に東京・有明の東京ビッグサイトで開かれる国際食品工業展「FOOMA JAPAN2018」に出展する。

# ジャガイモ2秒で芽取り